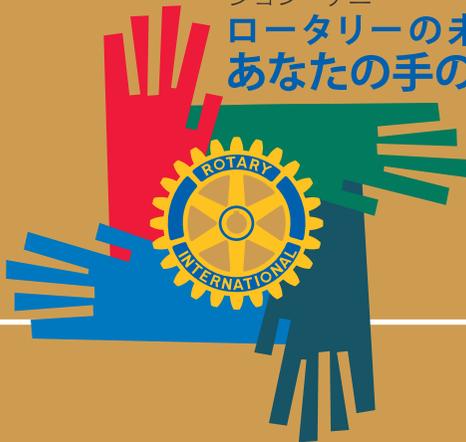


2009～2010年度 国際ロータリーのテーマ
ジョン・ケニー

ロータリーの未来は
あなたの手の中に



会長／対馬健一 幹事／中出敏彦

RI第2510地区

留萌ロータリークラブ 会報

2009▶2010 WEEKLY REPORT

留萌ロータリークラブ会長テーマ

親睦でクラブの活力と結束を、 そして奉仕は足もとから

プログラム

- 本日
会員卓話「WCS検証ツアーについて」
ガバナー補佐 田中公一 会員
- 次週予定
職業訪問夜間例会

No. 2409

第32回 3月3日

出席報告

前例会

会員総数……………44名
出免会員……………4名
出免出席……………2名
出席会員……………30名
出席率……………71.43%

前々会

第29回 2月10日

出席会員……………33名
メイクアップ……………4名
修正出席率……………83.33%

例会／毎週水曜 12:15～13:15 留萌産業会館2F



会長報告……………

- 3月2日は第9回定例理事会並びに第5回クラブ協議会です。理事役員、委員長さんは忘れずに出席をお願いします。
- 本日例会場の前で萌っこ春祭りのカンパ券を販売させていただきましたとの事で、実行委員会の方が皆様によろしくとの事でした。



ニコニコBOX……………

(2月17日分)

- ・しばらくぶりにホームクラブ例会に出席出来ました 平井会員
- ・お久しぶり～ネ 佐藤(喜)会員
- ・ビンゴ当たりました 深瀬、佐々木、佐藤(喜)会員

- ・ビンゴ、ニコニコBOXありがとうございます 中川親睦活動委員長

前回 620,000円
今回 10,000円
累計 630,000円

(2月24日分)

- ・先週の例会で途中退席申し訳ありません 対馬会長

- ・先週の夜間例会ありがとうございました 中川会員

前回 630,000円
今回 4,000円
累計 634,000円



プログラム……………

「我が生き立ち パート2」

深瀬会員

私は昭和5年留萌生まれ、生え抜きの留萌っ子です。住所は留萌市ではなく、留萌町原野一線四番地と呼ばれていました。現在の錦町二丁目、四十坊さんの所です。

留萌が町から市に昇格したのは昭和22年、稚内は24年、滝川などは昭和33年です。留萌は北海道の市では8番目です。いかに早かったか、発展していたのかが分かります。

留萌は町を東西に区割りし、ホテルRインから西側は本通り、南山手通り、記念通り、弁天通りと、住所を通りて表し、谷薬局から東側は原野一線、原野二線と数え、潮静小学校のあたりは、原野八線だったと思います。

私は男2人、女4人の6人兄弟の長男として生まれました。父は大正7年に馬具を扱う店を開き、営んでおりました。馬具店は昭和の初め頃迄は、全盛時代だったと思います。今札幌で一番大きなガソリンスタンドの勝木石油は馬具店出身だと父が言っておりました。当時深瀬の工場には職人が8人程おまして、馬具を製作していました。トラックヤローがトラックを飾ったように、若い人は馬具で競って馬を飾ったのです。馬道具は、天上、手綱、背鉤、柄、尾廻し、胴引き、馬服と多彩で、それはそれは綺麗で高価なものでした。また、当時は喫茶店もない時代でしたので、冬山造林の社長や、監督や帳場さんが再三出入りして、職人の仕事を見ながら、雑談し、工場にタムロしてたものです。戦後は木材が不足しておりましたので冬山造林も盛んになり、工場は活気一杯でした。また、留萌市内では、荷物を運搬するための運送業の馬車屋さんが沢山ありました。大きな馬車屋さんは補助車を5~6台所有し、若い人も沢山おりました。市内には大小合わせて30軒くらいあったと思います。それがトラックの出現でまたたく間に次から次と廃業に追い込まれていきました。それが昭和30年代の事で、そんなに古い話ではないのです。馬車屋さんの親方の苦悩は大変なもので、その苦しみを私は目の当た

りに見えています。

馬具に関係する事以外で話をかえますが、今新聞をにぎわしている総理大臣鳩山家が持っているブリヂストンの株の話です。タイヤメーカーブリヂストン会社は、創業者が石橋正二郎さんでその娘さんが鳩山一郎さんの長男鳩山威一郎元外務大臣に嫁ぎ、親戚関係になったのです。正二郎さんが鳩山家の将来に役に立つと子供や孫に与えたのがブリヂストンの株なのです。今になりますと鳩山家はそれで一躍資産家となった訳です。ブリヂストンタイヤは地下足袋で儲けたアサヒゴム会社を作ったと言っても過言ではありません。足袋の底にゴムを張り付けて地下足袋を考案し、爆発的に売れ、大正時代は中国まで輸出して湯水のごとく利益をあげたのです。その利益のお陰で、長男はアサヒゴムを継ぎ、次男正二郎さんが独立してタイヤ工場を立ち上げたのです。

当時タイヤ業界はダンロップや横浜ゴムが欧米の代理店としてがっちり支配していました。ブリヂストンタイヤの生産はなかなかうまくいきません。しかしアサヒゴム会社が次から次と資金をつぎ込んでいきました。しかしそれだけ努力してもタイヤが不良品として工場に返品され、返品タイヤの山となってもうダメかと思った時、正二郎さんが閃いたそうです。今まで荷馬車は木車に鉄を巻いたものでしたが、それをゴムタイヤに換えられないか、鉄を巻いたガタガタ荷車を返品タイヤで補助車を考案したのです。車が小さくなったばかりでなく、軽く滑らかで、音がしない補助車が爆発的に売れ、返品タイヤを一掃し、その成功で現在世界一のタイヤメーカーに成長したのです。大正時代の大不況の折、時の大蔵大臣が「九州の久留米市に石橋家あり」「アサヒゴムを見よ、ブリヂストンを見よ」と絶賛したそうです。石橋家も元は馬具屋だったと父から聞いたことがあります。本題にもどります。

深瀬家は和歌山県十津川の武士の家柄でした。父は生前いつも自慢しておりました。しかし明治の改革で時の政府は、武士階級の地位を全て無償で取り上げましたので、武士の不満が充満していたそうです。それで、戸籍簿に士族、平

民、新平民と記入して武士階級の不満をなだめたのです。昭和になり、支那事変などが起こり国民を総動員するため、国民は皆平等だと政府が士族の名称を戸籍から抹消したので父が非常に残念がっておりました。また、天皇家や皇室をより神格化するため、深瀬家の家紋である菊水を使用してはならないと、これも取り上げられました。父も母も着ている羽織、袴、着物から家紋を消さなければなりませんでした。深瀬家親戚一同は相談して、桐の紋に変えることにしたのですが、お金もかかりますので、父も母もこぼしていたのを、子供心に情けないことだと思った事を思い出します。終戦後、すべて自由になりましたので、さっそく家紋を菊水に復活し、菊水をつけた大きな横幕まで作り、正月など店の正面を飾ったものです。

次はお墓の話ですが、深瀬家の墓は深川の墓地にあります。父が昭和61年に亡くなった時、父は生前ニシンのたて網を浜中で経営していましたので、父のため海が見える留萌にお墓を移そうかと考えましたが、やはり深川に建てる事に決めました。一つは子供の頃よりズーと皆でお墓参りをしていましたので、深川でないとお墓参りをした気にならなかったからです。もう一つの理由は広さです。深川の深瀬家の墓地は留萌の区画割りの3倍ほど広いのです。深川市の墓地の区画がすべて広いのではなく、墓地の前から10列目位までが広いのです。昔士族は土葬するという事で広く区画され、お陰で深瀬家も広い敷地にお墓があったのです。留萌神社の白取神主を伴い菊水の家紋を入れた深瀬家の奥都城と士族らしいお墓を建てました。20年ほど前の事ですが、今になって子供や親戚がよく深川に建ててくれたと喜んでおります。高速道路の深川西、妹背牛の出入り口のすぐ側になったからです。留萌からも札幌からもお参りしやすい訳で、深瀬のために高速道路を通してくれたと冗談を言い合っております。

次はニシンたて網の経営の話です。建場は浜中でしたが、たて網を経営すれば必ず儲かるものではありません。たて網の経営は山師か博打うちかと言われておりましたので、絶えず儲けを心配して経営していたものです。父もそれは

承知しておりまして、出資者、すなわちお金を出してもらう人を決めておりました。加地先生のお父さん、加地漁業社長の加地民蔵さんと大変仲が良く、また市議員など同士でもありましたので、出資してもらっておりました。当時は、たて網に関係することは大漁すれば配当金の大金が入るので、男の仕事の生甲斐でもあったようです。私も中学生くらいになると、父がたて網をやっている事で、3月4月は緊張しておりました。ニシン曇りの日など、ニシンが来たとなると「晏男、浜中の建場を見て来い」と言われ、私は自転車ですぐ見に行き父に報告したものです。また、ニシンがとれ出すと「晏男、神社にお参りして大漁と無事を祈ってこい」と言われ、高台までハァハァ言ってお参りしたものです。大漁の時は一番梓網が一杯になり、二番梓網、三番梓網までとれる事があります。三番梓網になると網が古いので、欲張ると網が破れる心配があり、どれくらいニシンをつめるかは船頭の力量の出し所だった様です。一杯つめた網は引き舟と言って小型蒸気船、私たちはボンボン蒸気と言っていましたが、黄金岬を廻り、赤灯台をかわして大漁旗を立てて南岸壁につけたものです。港は大漁旗で一杯になり、大変にぎやかなものでした。また、深瀬のやん衆は青森県六ヶ所村から来ておりました。父は12月になると前渡金を持って来春の若者の手配に行ったものです。当時は船頭と若い者も30人程でしたが、不漁ですと前渡金だけで春はただ働きとなるのです。しかし、反対に大漁だと大金が入るのです。父の良い所は大漁した時にお金を帰る日になってから渡す事で、信用があったからこそ出来たのですが、普通の親方は何日か前に渡します。若い者は大金が入ると市内の飲み屋にくり出して遊びます。また、行商などが沢山来て物を買ってしまいます。父はお金を持たして家に帰りたいのです。六ヶ所村の留守宅の家族からは父の流儀が大変喜ばれていたのです。若い者が皆無知だったわけではありません。一緒に来ていた前田船頭の息子さんは後に、八戸市にて漁業関係の会社を経営し社長として成功して、ニシンとりを止めてからも永らく交際しておりました。

時間となりましたのでこの辺で終わります。
ご清聴ありがとうございました。

中川会員

貴重な時間に我が生い立ちを話す機会を作っていただき、西谷例会運営委員長さんに感謝申し上げます。我が生い立ちをお話するのは29年前の新会員の時にお話して、今回で2回目になります。時間通り終わるか多少不安がありますが、2回目の我が生い立ちをお話します。

私は昭和19年5月11日に、農家の5人兄弟の4男として旭川にて誕生しました。現在の東光16条ツインハーフ近く、現在は宅地で昔の面影はありません。子供のころは忠別川付近で遊んだ記憶があります。

高校は農業高校に1年通学いたしましたが、私自身自動車整備が好きで、整備士になりたくて自動車専門学校を受験し直しました。当時自動車関係の希望が多くて、私が受験した時は定員が45名のところに320名の受験生が集まり、約8倍の難関になりました。当然合格は無理だと思っていましたので、旭川東高の2部も受験をいたしました。結果は2つとも合格し、もったいないので昼は自動車専門学校、夜は東高の定時に通いました。お蔭様で自動車整備士の資格を取得することができました。

専門学校を卒業後、旭川市内の自動車会社に就職致しました。勤めながら夜間の定時制に通い、大変眠たいと思った記憶があります。学校が終わって家に帰るのは10時頃で辛い思いがありました。

私が留萌に出て来たのが昭和39年11月で、元町に兄と2人で元町ボデーの名称で自動車修理専門工場を設立し、今年で46年になります。留萌に来た理由はまず、兄が旭川トヨタ留萌営業所に勤めていた事と、私が旭川に勤めていた当時、留萌、名寄、士別、富良野、深川などから各営業所より修理の依頼が工場にあり、高級車の依頼が留萌のお客様が一番多く、留萌は金持ちばかりいるのではとの理由で、留萌で開業致しました。

当時留萌に来て、今は無いお店ですが、ガソリンチケットを作ってくれませんか頼んだと

ころ、ガソリンが無いから出来ませんと言われてました。そのお店では1年間現金でガソリンを入れました。それからスタンドを替えてガソリンを入れていると、後ほど断られたお店からチケットを作ってくれませんかと会社に来られましたが、ガソリンが少ないでしょうから他のお客様にと言った記憶があります。また、自動車専用塗料が必要で今は無い会社の塗料専門店に材料の取引出来ませんか頼むと、刷毛1本で仕事をしている方には売ることが出来ませんと丁寧に断られた記憶がございます。

車両専門販売会社は平成元年にマツダオートザム店の日本1号店としてスタートいたしました。クラブの串橋会員も当社の営業マンとして2年ほど勤めていただきました。当時串橋君は自動車短大を優秀な成績で卒業され、仲間が多く、学生時代はリーダー的な存在で、皆様に恐れられていた様です。私の会社に面接に来た時、改造した珍しい韓国ベンツでバリバリと来た時は私もびっくり致しました。串橋君は営業センスも良く、多くの顧客に好かれておりました。そのお陰で22年間無事に会社があるのだと思います。串橋君に感謝致します。

ロータリーについてお話すると、ロータリー歴は昭和55年7月2日に入会し、今年7月で30年になります。入会当時は11名同時の入会で、入会式の例会では前の席を2列にして座った記憶がございます。当時の会長さんは坂井清さんで、幹事は平井誠治さんです。増強委員長は亡くなられた富山P Gで、会員数が96名になりました。同時入会した会員さんは、現在、田中先生、高田会員そして私の3人しか居りません。私もロータリーに入会させていただき感謝しております。私は昔、若い時はあまり良い方ではありませんでした。それがロータリー会員皆様のご指導で、大変変わりました。嫁にもロータリーに感謝しなさいとよく言われます。私も会員名簿の上から7番目まで来てしまいました。

来年クラブ50周年、私は30周年を迎えます。何とかクラブ50周年が大成功で終わるよう努力をしたいと思います。